

農林水産省 東北農政局 秋田県拠点

秋田ニュース

Stationed at Akita Prefecture Area,
Tohoku Regional Agricultural Administration Office

みどりの食料システム戦略の実現に向けて

令和4年4月22日に「環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律」が成立し、5月2日公布、7月1日に施行されました。社会全体を持続可能なものにしていくためには、食の調達から生産、加工、流通、消費まで、あらゆる関係者のつながりである「食料システム」を環境にやさしい《みどり》のものにし、みんなで支えていくことが大切です。今回は県内における有機農業などの持続可能な取組について、2つの事例を紹介します。



除草剤不使用のため機械による除草作業

事例1 大潟村の挑戦！

大潟村は干拓地であることから必要な水の多くを周辺の残存湖に頼っているため、以前から環境問題への関心が高く水質改善に取り組んできました。そのことは、今、持続可能な未来を見据えた取組へと、進化して行きます。

オーガニックビレッジの取組

村は、農林水産省の「有機農業に地域ぐるみで取り組む産地（オーガニックビレッジ）」の取組を行うなど、村を挙げて有機農業を推進しており、その面積は全国最大級とされています。

また、村には「大潟村有機農業推進協議会」があり、6月23日には同協議会主催で「有機ほ場視察研修会」が行われ、大型の除草機（写真上）や緑肥にヘアリーベッチを使用した大豆ほ場が公開されました。会長の栢森一夫さんは、「農業には基本となる土づくりが重要」と語り、令和3年度の「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」で、有機農業・環境



緑肥利用のヘアリーベッチ

保全型農業部門の農産局長賞を受賞するなど有機農業の先駆者として取り組んでいます。

長期中干しでメタンの発生抑制

国内の農業分野からの温室効果ガスの発生割合は、稲作が42%を占めています(2019年)。

村では、当省の「環境保全型農業直接支払交付金」を活用し、通常よりも長い期間（14日以上）水田の中干しを行うことにより、収穫量への影響を抑えながら、温室効果ガスのひとつであるメタンの発生を抑制しています。

自然エネルギー100%の村づくりへ

太陽光発電と蓄電池を利用して村全体の民生部分の電力消費を賄う事業や、地域の課題でもある未利用の「もみ殻」を原料としたバイオマス熱供給事業等を中心とした計画で、当省の「バイオマス産業都市構想」や、環境省の「脱炭素先行地域（第1回）」に選定されました。



資源として期待されるもみ殻

事例2 目標は循環型農業 Pilz株式会社(横手市)



Pilzの外観

廃菌床で昆虫飼育

菌床しいたけ栽培の一大産地の横手市にあるPilz株式会社(ピルツ、代表取締役 畠山琢磨氏)では、しいたけ廃菌床を原料に独自の餌(Kマット)を製造、給餌して昆虫を飼育・販売する事業に取り組んでいます。

菌床栽培でしいたけを収穫し終えた「廃菌床」は発酵させて堆肥として活用できますが、処理仕切れないものは産業廃棄物として有償で処分しなければならず、生産者にとってはやっかいなものです。

きっかけは昔の思い出

Pilzでは大規模な菌床しいたけ栽培に取り組んでおり、大量に発生する廃菌床の処理をどうするか畠山代表が悩んでいたところ、昔、畑に置か



畠山代表取締役

れていた廃菌床にカブトムシなどの昆虫が集まっていたことを思い出し、廃菌床は昆虫が好むものと認識していたことや、大館市の外国産昆虫のブリーダーと知り合う機会があり、技術的アドバイスを受けるなどして、「リスクを選びベストを尽くす」との信念から、廃菌床を利用した昆虫飼育の取組が始まりました。

徹底された飼育管理

昆虫の飼育は、専用施設1棟で繁殖、産卵、幼虫の育成、羽化まで個体ごとにすべて管理されており、廃菌床を原料に独自の餌(Kマット)を製造、給餌し、主に外国産のカブトムシやクワガタなどおよそ50種、1万匹を飼育しています。



飼育中の昆虫

飼育した昆虫は、市場に出荷するほか、昆虫ショップ、SNSを利用したネット販売、イベントにおける展示販売をしていますが、生体よりも標本市場の方が規模が大きく、需要があるとのことでした。



昆虫の餌用マット

循環型農業モデルへ

今後の展開について畠山代表は、「廃菌床を餌にした昆虫の糞と廃菌床で堆肥を作り、それをほ場に還元して野菜を栽培・販売するなど【循環型農業】のモデルとして取組みアピールしていきたい」、また、「将来、昆虫を軸にしたツアーを企画し、



同社で飼育した昆虫の標本



廃菌床の集積場所

昆虫の飼育現場見学、しいたけや野菜の収穫体験、生産物販売等を一体的に取り組むことにより、地域に利益を還元できるのではないかと抱負を語られました。

みどりの食料システムにはどんないいことがありますか?

生産者にとっては、未来の子どもたちに豊かな自然を残し、環境に配慮した農林水産物を消費者にお届けする「きっかけ」になることが期待されます。

「みどりの食料システム戦略について」詳しくはこちらから

https://www.maff.go.jp/tohoku/kihon/m_index.html



東北農政局 秋田県拠点 地方参事官室

〒010-0951 秋田市山王7-1-5 TEL: 018-862-5611 FAX: 018-862-5340

URL : <https://www.maff.go.jp/tohoku/tiiki/akita/index.html> Eメール(総合窓口) : sanjikan-info-ak@maff.go.jp